

# ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2017年1月

## ISO/TC 61/SC 4(燃焼挙動)分野の最近の動向

ISO/TC 61/SC 4はプラスチックの燃焼挙動に係るプラスチック共通の試験方法に関する規格を担当しており、現在、4つの追補を含め27規格が発行され、11件の開発中案件(内3案件が日本提案)が活動しており、幹事国は英国(BSI)、幹事は Mr. Petar Luzajic で、議長は Mr. Stephan J Grayson(英)が務めている。現在、5つの作業部会(WG)で、日本を含む24ヶ国がP-メンバーとして活動に参加している。また、O-メンバーとして13ヶ国が参加している。

プラスチックは電気製品、建材、家庭用品から船舶・車両などの素材として広く用いられていることから、ISO/TC92(火災安全)、IEC/TC89(電気製品の耐火性)、CEN/TC127(建築材料の防火)、CEN/TC257(鉄道車両)、IMO(国際海事機関)、FAO(国連食糧農業機構)など関係する分野との連携を深めている。

本稿ではISO/TC61/SC4の最近動向及び国内ミラー委員会〔当連盟のISO/TC61/SC4委員会：吉田主査(日本舶用品検定協会)、国内委員会と呼称〕の関連する活動状況の概要を記す。

### 1. WG2(燃焼生成物：煙及び腐食性)

コンベナーは、Mr. Eric Guillaume (仏)で、「発煙性試験(ISO 5659-シリーズ)」、「燃焼生成物による腐食性試験(ISO 11907-シリーズ)」等の規格を担当しており、現在6つの規格が発行されている。シングルチャンバ発煙性試験のISO 5659-2の改正作業はFDISに進むこととなった。また、ISO 11907-1(燃焼生成物の腐食性：ガイダンス)はタイトルを“general requirements and applicability”とし新規提案される予定である。

### 2. WG8(着火性と火炎の拡大)

コンベナーは、Mr. Marcelo Hirschler (英)で、「着火源の分類規定(ISO 10093)」、「着火温度試験(ISO 871)」、「垂直、水平燃焼特性試験(ISO 9772,9773)」、「酸素指数燃焼性試験(ISO 4589-1～-3)」、「燃焼の広がり試験(ISO 12992)」、「燃焼発熱量に関する試験法(ISO 13927, ISO 21367)」、「試験炎による燃焼試験(IEC 60695-11-10,-20)」等の規格を担当し、現在12の規格と4つの追補が発行されている。

また、片野委員が担当する酸素指数3規格は経済産業省の国際標準化事業として改正作業を行っており、現在、DIS投票が終了し、昨年の国際会議ではFDIS段階に進むことが承認された。

さらに、JAXAを中心に経済産業省の国際標準化事業として新規提案を予定している「微小重力におけるプラスチックの燃焼性の評価方法」については、昨年の国際会議に予備提案を行ったが、解析方法の正当性及び妥当性についてのさらなる情報を提供した後、PWIとして登録することとなった。

### 3. WG9(複合材及び中間製品)

コンベンナーは、吉田主査で、担当の発行規格は、「複合材の燃焼挙動の一般指針(ISO 25762)」、「中間規模燃焼試験の指針(ISO 15791-1)」及び「繊維強化高分子複合材料の中間スケール耐火試験(ISO 30021)」の3つの規格を担当し、開発中案件として、ISO TS 15791-2の開発がある。

### 4. WG10(ライター)

コンベンナーは、Mr. Steve Burkhart(米)で、「ライター」関係(ISO 9994, ISO 22702)の2規格を担当しており、ともに近々、改正規格が発行される予定である。

### 5. WG11 (TR20118の開発)

現在、TR 20118(塩化ビニルの燃焼特性)について PWI 文書を作成中である。

以上